



北米ホーリネス教団  
オレンジ郡  
キリスト教会  
「週報」

2015年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 聖書日課に励もう
3. 祈り会に参加しよう
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am  
 コヒー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am  
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm  
 みふみ会 : 水曜日 10am  
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm  
 早天祈禱会 : 土曜日 7am  
 家庭集会 : 各地区に2箇所  
 牧師 : 杉村 幸 (日本語部)  
 : 益田デーロ (英語部)  
 電話 : (714) 827-6244 (教会)  
 : (714) 527-1456 (牧師館)  
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com  
 教会ホームページ : www.occc.org  
 教会所在地 : 4872 Bishop St.  
 Cypress, CA 90630

◎石叫 ■ 「妻と飛んだ特攻兵」

豊田正義著『妻と飛んだ特攻兵』（角川書店・二〇一三年）を読んだ。この五月の日本伝道旅行の途次、手にしたものである。そして衝撃を受けた。満州の地から最後の特攻兵が女性を乗せてソ連軍に向けて体当たりした、というのだ。

「太平洋戦争の敗戦から四日後の昭和二十年八月十九日、関東軍の第五練習飛行隊が駐留する南満州の大虎山飛行場は、異様な熱気に包まれていた。全長千メートル弱の草地の滑走路を大勢の日本人居留民が囲み、無数の日の丸の旗が振られていた。滑走路には十一機の飛行機が並べられ、機体の前に白絹のマフラーを風になびかせた十一人の飛行兵が整列した。その十日前の八月九日、ソ連軍が日ソ中立条約を一方的に破棄して満州に侵攻し、関東軍の国境警備隊は勇猛果敢にソ連軍に挑んだが、圧倒的な戦力の前に壊滅的な敗北を喫した。八月十五日、大本営は日本の全軍に対し、戦闘停止と武装解除を命じた。それは敵軍に手持ちの全兵器を渡し、全兵士が捕虜になることを意味する。満州では日本の降伏後もソ連軍の侵攻が続いていたが、関東軍総司令部も兵器の引渡しと彼らの捕虜になるため、錦州飛行場に集合を命じた。そこは大虎山から百キロほど離れた所であった。そこへの飛行が十一人の最後の任務だった。彼らは飛行機に乗った。すると日の丸の旗を振りながら見送っていた人々の間から次々に声があがった。「女が乗っているぞ!」。実は彼らは錦州ではなく、ソ連軍戦車隊へ特攻をかけるべく飛び立ったのだ。谷藤徹夫少尉の機には新妻、朝子、大倉巖少尉には馴染みのスミ子という女性が搭乗していた。この十一人は十四日にソ連軍による日本人避難民の葛根廟での大量虐殺を上空から目撃し、その乱暴狼藉を阻止するために急遽、結成された「神州不滅特別攻撃隊」であった。その搭乗した女性たちも、生きても地獄、と考えた末の決断であったのだろう。日本人として止むに止まれぬ思いから出た勇猛果敢な決断であった」

止むに止まれぬ思いといえば、罪という悪の虜になっている私たちを救い、その縄目から解放するために、敢えて天のみ位を捨てて飛んで来て下さったのが主イエスである。パウロは「しかし、まだ罪人であった時、わたしたちのためにキリストが死んで下さったことによって、神はわたしたちに対する愛を示された」（ローマ五・8）と宣言したように、主の身代わりの死によって救い主の勇猛果敢な愛の決断を知ったのである。戦争は最愛の者をも巻き込むが、その悲劇を打ち破るために、神の愛の犠牲があった事を心に留めねばなるまい。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

